

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
8 ○運営に関する職員意見の反映	
III. その人らしい代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1471903052
法人名	有限会社Cocci
事業所名	グループホーム ちゃばしら
訪問調査日	令和6年12月9日
評価確定日	令和7年2月10日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471903052	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	有限会社Cocci		
事業所名	グループホーム ちゃばしら		
所在地	(238-0043) 神奈川県横須賀市坂本町5-5-18		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	今後の継続	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		今後の継続	名
		定員計	7名
		今後の継続	1ユニット
自己評価作成日	令和6年11月5日	評価結果 市町村受理日	令和7年2月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールし現在、家族の面々今後の継続

定員7名という小規模ホームの特性を活かし目の行き届いた介護を目指している。利用者の身体の残存機能維持、認知症進行の緩和を意識し、リハビリを兼ねたレクリエーション、また家事等の生活リハビリを日常生活の中で行っている。健康保持、体力増進の為に気候が良い時は戸外への散歩や外気浴をするよう心がけている。地域の一員として、町内会主催のお花見会や祭礼等各種イベントへの参加や、地元商友会への加入、中学校の職業体験受け入れを行う等、地域交流に積極的に取り組んでいる。開所以来職員の定着率が非常に高く、職員の内、勤続年数10年以上の者が全体の8割、5年以上の者が9割を占めている。代表者は「介護労働安定センター」や「かながわ福祉サービス振興会」主催の各種研修等に積極的に参加し、安定した事業運営、または事業継続に必要な最新の情報収集に努めている。各種助成金、補助金等を有効活用し、浴室バスリフト、見守りセンサー等介護ロボット、ICTを積極的に導入する等、生産性向上に努めると共に、事業所の大規模防災改修工事、災害時等の断水対策として給水タンクシステムの設置、新型コロナ等感染症対策として簡易陰圧装置の整備等、有事の際にも事業所の機能を維持出来るよう事業所設備の整備に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和6年12月9日	評価機関 評価決定日	令和7年2月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、有限会社Cocciの経営です。法人の代表者が事業所の管理者を兼務しています。「Cocci」はイタリア語で「てんとう虫」の意味で、幸せを呼ぶと言われるところから名付けられました。「グループホームちゃばしら」は利用者が住み慣れた地域、家庭的な環境の中で安心して暮らしていけるようにとの思いで開設された7名定員の小規模なホームで、目の行き届いた介護を展開しています。立地は京浜急行「汐入駅」からバスで10分ほど、「坂本」で下車し徒歩2分ほどの緑色が特徴的な建物です。

●「地域に根差した事業所にする」との理念のもと、積極的に地域との交流を図り、今年度はコロナ禍以降徐々に再開された地域行事の「公園での花見」や「納涼祭」に参加しました。運営推進会議には坂本全町内会の民生委員が交代で参加をして下さり、ホームのことを地域の方に周知してもらえる機会となっています。中学校の職場体験の受け入れも継続しています。

●法人の代表でもある管理者は、安定した事業運営・事業継続・より良い環境作りに必要な情報収集に努め、各種助成金・補助金を活用して、見守りセンサー等介護ロボット・給水タンクシステム・周辺が土砂災害警戒区域になっているため窓にシャッターを付けるなど、設備の整備に努めています。

●研修への参加方法は、Zoomが主流になっており、身体拘束・虐待・感染症についての研修を受講し、振り返りも行っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ちゃばしら
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			○ 3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の運営方針の一つに「地域に根ざした事業所にする」とあり、事業所が地域の一員として地域の中で生活することが出来るよう、管理者と職員一人一人が日頃から積極的に地域交流に努める意識をもち業務にあたっている。	事業所の理念「地域に根差した事業所にする」と、5項目からなる理念を玄関に掲示しています。入職時のオリエンテーションで伝え、年度替りのタイミングで、再共有しています。日頃から積極的に地域との交流に努めていることから、地域行事の際に声をかけていただくことも定着しています。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域行事等への参加を心がけているのと共に、地元商友会への加入、中学校の職場体験学習受け入れを行う等、地域交流を積極的に行っている。徘徊する可能性のある利用者については、民生委員さんを中心に、近隣の商店、交番等にも有事の際の協力体制の構築に努めている。	町内会に加入し、回覧板を通して地域の情報を入手しています。管理者は町内会の新年会にも参加しました。中学校の職場体験学習を受け入れ、車椅子体験やレクを一緒にやるなど、認知症の方との触れ合いをしました。民生委員の方を通して、地域での事業所の見守りを願っています。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんにはおおよそ隔月で運営推進会議に出席して頂いており、事業所の認知症介護の実践や認知症の方への理解、支援の方法等について、民生委員さんを通して地域の方に発信している。現在運営推進会議は坂本全町内会の民生委員さんが交代で出席して頂けることになったことで、より多くの地域の方にホームのことを知って頂ける機会を得ることが出来た。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者や事業所の近況報告等を主に行っている。また身体的拘束等の適正化の為の対策検討委員会の一部として運営推進会議を利用している。また高齢者虐待、感染症対策、災害時対応等も適宜会議のテーマにしている。会議では情報提供をすると共に、出た意見等については積極的に取り入れサービス向上に活かすよう努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、開催しています。事業所からは近況報告や活動報告を行い、いただいた意見をサービスの向上に活かしています。運営推進会議を利用して、適宜身体拘束適正化の為の委員会を行い、高齢者虐待や感染症対応等も会議のテーマにしています。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは報告・連絡・相談を密にするよう心がけている。また、年に1回、運営推進会議への出席を依頼している。コロナ禍に於いては、感染拡大防止の為に市町村担当者の会議への出席は控え、書面で意見を提出してもらっている。	市には運営推進会議の議事録の提出等、必要に応じて出向き、情報交換を行っています。年に1回は、運営推進会議への出席を依頼しています。市からの研修や、集団講習会はZoomで行われ、職員で共有しています。市のグループホーム連絡会に参加し、情報の共有を行っています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の心身の状態の安定を図る為に、身体的拘束等を行わないという理念の下日常の介護にあたっている。開所以来、原則事業所の玄関戸は施錠せず、自由に出入り可能にしてある（換気の意味でも一年中玄関扉は開放したままにしている）。施錠の弊害、事業所が日頃解錠をしている意味について、ご家族には入居前に説明し了承を得ている。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回、管理者・ケアマネジャー・常勤職員等の参加で開催し、情報を共有し事例検討を行っています。運営推進会議の中でも話し合っています。年2回、内部研修として回覧研修等を行い、議事録にも残しています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	主に管理者が高齢者虐待関連の外部研修に参加し（自治体主催のもの年3回、その他ZOOM研修等）、定期的に事業所内で資料回覧、研修等を行っている。また高齢者虐待防止のための指針を整備し、虐待防止検討委員会を定期的に開催している。高齢者虐待については適宜自己チェックを実施し、各々が自身の介護について見つめ直している。	運営推進会議の中でも、高齢者虐待をテーマにし話をしています。身体拘束適正化委員会と同時に虐待防止委員会を開催し、情報を共有しています。高齢者虐待については、年2回の研修と、適宜自己チェックを実施し、日々の対応について振り返りを行っています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が適宜権利擁護関連の研修に参加し、それを元に、事業所内で資料回覧、研修等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、契約時には十分な説明を行っている。法改正等があった場合は、改正の詳細について都度書類を作成し説明している。不明点があった場合でも、管理者と常時連絡が取れる体制を整備している為、早期解決が可能である。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族からの意見、要望に関しては可能な限り受け入れ、事業所の運営に反映させるよう努めている。月に一度ご家族に利用者、事業所の近況等を書面にて報告している。コロナ禍で面会制限を設けていた時は、毎月写真を送る等して日常の様子をご家族に伝えるようにしていた。	現在、家族の面会は窓を開けて実施していません。その際に意見や要望をお聴きし、可能な限り受け入れ、運営に反映させています。内容については、管理者・主任が把握し、職員と共有しています。月に1度、家族に利用者の近況報告では、行事等の写真と併せて、事業所の近況報告を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	よりよい事業所運営の為に、管理職は職員からの意見等を可能な限り導入するよう心掛けている。管理職と職員の距離がいい意味で近く、職員の定着率が非常に高い。現在勤続年数10年以上の職員が全体のほぼ8割という定着率の高さである。	管理者は、職員の働きやすい職場になるよう心掛け、出来る限り改善できるよう、申し送りや日頃の業務の中で職員の意見や要望を聴いています。契約更新の際に個人面談の機会を設けていますが、都度必要に応じて話を聴く場を設けています。勤続年数の長い職員が多く、風通しの良い職場になっています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は介護労働安定センター、かながわ福祉サービス振興会等主催の労務関係の研修に適宜参加し、安定した事業運営、事業継続、よりよい職場環境作りに必要な最新の情報収集に努めている。また、教育訓練規定、人事考課規定等に基づき、各人の努力・実績、勤務状況等に応じた給与体系を整備する等、各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めている。	代表者は、事業所独自の教育訓練規定・人事考課規定に基づき、職員の努力・実績・勤務状況等に応じた給与体系を整備し、職員がやりがいをもって働けるような職場環境の整備に努めています。シフトは主任が調整し、希望休や有休に配慮し、時間帯についても個々の事情を考慮しています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員個々のケアの実際と力量を把握するよう心がけ、各々に適した研修参加の機会の確保に努めている。研修に参加した職員が中心となり、事業所内研修、研修内容の情報開示回覧等を行い、事業所全体のスキルアップに努めている。コロナ禍以降ZOOMでの研修機会が増えている。	代表者は、職員個々のケアの実際と力量を把握するよう努め、各々に適した研修の参加の機会の確保に努めています。Zoomでの研修参加が主ですが、管理者が受講し、事例を基に資料を作成し、職員への回覧研修を行っています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内グループホーム協議会主催の研修等に積極的に参加することで、知識、技術の向上だけでなく、同業者同士のネットワークも確立された。（令和5年度をもって協議会は解散し連絡会となった。）代表者は、その他にも市内有志のグループホームの管理者、経営者等が中心になって開催している運営会議にも定期的に参加をして情報交換をすると共に、有事の際の協力体制の構築に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始の段階ではもちろんのこと、入居の相談、見学時に本人が困っていること等の聞き取りを行っている。また、要望等に関しては可能な限り受け入れるように心掛けることで、本人の安心を確保するための関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者同様、サービス利用開始の段階ではもちろんのこと、入居相談、見学時より、ご家族が困っていること、不安なこと、要望等に関する相談に親身に対応するよう心がけるなど、信頼関係作りに努めている。相談窓口は基本常時対応可能になっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーが入居前入居時にアセスメントを行い、本人、ご家族等から情報を収集し、「その時」どのようなサービスが必要か見極め、サービス計画表に反映させている。また他サービスの利用が必要とされる様な場合にも、臨機応変に対応した計画表を作成するよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	小規模ホームであることを活かした目の行き届いたケアの実践を目指し、職員、利用者皆が一つの家族であるような関係作りを心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月1回利用者の近況を書面にて報告しているが、その他も適宜報告・連絡・相談をし、状況に応じご家族へ協力を依頼することになっている。コロナ禍以前は夏、クリスマス期に開催するイベントにご家族も招待していた（両イベントへのご家族の参加については次年度以降再開予定）。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や馴染みの人へ手紙を書く等の機会があった時はプライバシーに配慮し、必要に応じた支援を行っていた。元々面会に脚を運びやすいように、特設面会時間は設けず（時間等については良識の範囲でというお願いはしている）、外出・外泊は基本自由にして頂いていたが、コロナ禍以降は一部制限をしている。	家族は多い方で、週に1回ほどの面会があります。利用者の兄弟が来られたり、年に1回ほど友人が来られる方もいます。手紙に関しては、現在手紙でやりとりを出来る方が少なく、必要に応じた支援を行っています。近隣から入居した利用者は、家族と共に自宅へ帰り、食事をしてくださることもあります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小規模ホームであることを活かし、利用者皆で出来るような日中の活動を職員が考え日々取り組んでいる。また、皆で家族であるような関係作りを心掛けている。利用者内でも色々と人間関係の問題はあるが、適宜職員が間に入り調整をする等努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も賀状等を送るなどしている。また、退居後であっても、介護等に関する相談等がある場合は、可能な限り対応するよう心がけている。利用者が亡くなった後も、SNS等で連絡を取り合い近況報告をしているご家族もいる。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント等を通して、利用者（ご家族）一人一人の希望、意向の把握に努め、利用者が日々安心して、本人本位の生活が出来るような環境作りに努めている。利用者本人からの意向の把握が難しいケースはご家族の意向、想いを反映し、極力本人本位の生活が出来るよう努めている。	入居希望があった際に自宅へ伺い、アセスメントを作成し、利用者の生活歴や暮らし方の希望等の情報の把握をしています。入居後は、職員全員で日常の会話や仕草から意向の把握に努め、利用者や家族が安心して生活できるよう支援しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からのアセスメントを元に、利用者のそれまでの人生（生活歴等）、サービス利用に至るまでの経過について把握することに努め、ホームでの生活に活かすよう心掛けている。調理が得意な方については、職員と一緒に調理を行ったり、英語が得意な方については、日常生活の中で英語を使ったコミュニケーションをとったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議、または日常の中で管理職が中心になって適宜話し合い又は情報開示をし、ホーム全体で利用者一人一人の状態把握に努めている。場合により、家族等に情報提供を求めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が日々安心快適に過ごせるよう、ケアプラン更新時には利用者又はご家族にサービスに対する要望書を記入して頂いている。また、ご本人又はご家族等の希望に応じてサービス担当者会議に出席して頂ける体制を整備している。必要に応じ面談の場を設け、出た意見、要望等はケアプランに反映させ、現状に即したプランを作成し、提供するサービスの向上を図っている。	入居前のアセスメントにより、初回の暫定介護計画を作成し、1～3か月様子を見ています。モニタリングは3か月に1回、ケアカンファレンスを3か月に1回行い、職員の意見も聞き取りながら基本的には6か月ごとに更新をしています。家族の要望や希望は、ケアマネジャーが聞いています。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践・結果、気づき、サービス向上の為に有益な情報等については、サービス提供記録表及び介護記録アプリ（ipad）への記入、入力と共に、職員連絡ノートへの記入、口頭での伝達、必要に応じて回覧等行い、皆で情報を共有、把握出来る様努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者又はご家族のその時々ニーズに対応出来るよう、日頃より日課、またはサービス計画に固執せず、いい意味で柔軟、臨機応変に対応できるケアを心掛けている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人一人の暮らしを支えている地域資源の把握、情報収集等に努め、一人一人がそれまでの人生経験を活かせ、且つ安全で快適な日常を送ることが出来るような支援の実践を心がけている。			
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医については、ホームの提携医療機関に拘ってはならず、利用者本人、ご家族の希望に沿って決定するよう努めている（入居前のかかりつけ医を入居後も継続することが可能）。入居後のかかりつけ医の決定についての説明、相談等は、入居相談時から行うようにしている。	入居時に事業所の提携医療機関の説明をした上で、利用者や家族の希望する医療機関を決めています。提携医療機関からは、月2回の訪問診療があります。訪問看護師は、必要な時に利用しています。歯科を契約している方は3か月に1回の定期健診、または適宜往診があります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	元々ホームには看護職員はおらず、利用者の状態により適宜訪問看護等を依頼している。訪問看護利用時には、看護師との連絡を密にし、利用者の体調等状態管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には管理職中心に面会に行き、入院中の利用者の状態把握、退院後のホームでの対応等検討する為の情報収集に努めると共に、早期に退院が出来るようなアプローチをしている。また入院時に医療機関にサマリー等を提出することで、医療機関にも早く利用者のADL等の状態を把握してもらえるよう努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に応じ、適宜重度化、終末期の話をご家族等としている。その際、ホームで「出来ること、出来ないこと」等について説明をし、本人・ご家族が納得した上で、希望に沿った終末期のケアをするよう努めている。適宜、主治医、ご家族等と面談し、意思等の統一を図っている。	入居時に、利用者の状態に応じて重度化や終末期の話をしています。その際事業所は介護施設であること「出来ること・出来ないこと」があることを説明し、本人や家族が納得した上で、希望に沿った終末期ケアをするよう努めています。適宜、家族・主治医と話し合いの場を設けています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時等のマニュアルを作成し、事業所内で周知徹底をしている。また救命救急等の研修に参加した職員が中心になってホーム内で研修を行っている。また緊急時の対応については、職員会議だけでなく適宜職員間で確認、情報共有等をしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害に対応したマニュアルを作成している。火災訓練に関しては、防災計画にのっとり訓練を実施している。運営推進会議にて地域の方に災害時の協力体制について確認をしている。ホーム周辺は土砂災害警戒区域になっていることから、避難確保計画を作成し、計画に則り避難訓練を実施している。BCPを整備し従業員に対し周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的の実施している。また、定期的にBCPの見直しを行い、必要に応じてBCPの変更を行っている。	防災計画に沿って、火災・地震想定で年3回以上の防災訓練を実施しています。ホーム周辺が土砂災害警戒区域になっていることから、避難確保計画を作成し、計画に則り訓練を実施しています。また、補助金を利用し、急傾斜地側の居室窓にガラス飛散防止フィルムとシャッターを取り付けました。断水対策として給水タンクシステムを設置し、小型自家発電機の使用訓練も定期的に行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営方針で利用者への介護は同視線で、畏敬の念を持つよう提示し、職員一人一人がそのことを意識してサービスを提供している。利用者への声かけは周囲の状況を見ながら慎重に行うように心がけている。特にリビングルームでの会話の内容には注意をしている。	利用者に対しては、子ども扱いせず畏敬の念を持つよう心掛けています。トイレの声掛けの際には、言葉や声の大きさにも配慮しています。特に利用者が集まるリビングでの会話では、声の大きさや内容に注意を払っています。気になることがあった際には、会議で周知しています。		今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を職員一人一人が理解し、自己決定が出来る様ような関係性づくりの構築に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人がホームの主役という理念の元、一人一人の利用者の生活リズムを大切にしたい一人一人の利用者本位のサービス提供を心掛けている。一人一人の希望は可能な限り尊重している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日定時に皆で整容を行う時間を設ける等、利用者一人一人の身だしなみに気を配っている。女性利用者は外出時には薄いお化粧品をする等の支援をする場合もある。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人各々の能力に応じて、調理、お茶入れ、配膳等の準備から食器洗浄、食器拭き・片付けまでの一連の流れを職員と一緒にしている。献立は都度決める為、食べたい物の希望を聞いたり、食材の在庫状況により献立を一緒に考えたりする時もある。また食事は利用者、職員で一緒にの時間に、同空間で食べている（コロナ禍に於いては黙食を心がけている）。	日々の食材は、管理者が利用者の希望も聞きながら、旬の物等を市内のスーパーや地域の商店で購入し、メニューは職員がその都度決めています。利用者の状態に合わせ、形状に気を付けて提供しています。出来る方には、皮むきや炒め物、後片付け等を職員と一緒にしています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往症等に応じ食事制限等が必要な場合は、食事量の調整を行う。また水分摂取量については記録をし状況把握に努めている。夏期には水分摂取量に十分注意をしている。水分補給補助用とスポーツドリンクの寒天を作り提供している。夏期はおやつをゼリー類にする等心がけている。尿路感染、膀胱炎等起こしやすい利用者の水分摂取量については皆で徹底して確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。利用者一人一人に、出来るところは極力ご自身でして頂くように心がけているが、適宜職員が確認をし、口腔内の清潔に努めている。定期的に提携歯科の検診を受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の意思伝達が困難な利用者、オムツ利用の利用者、身体的に重度の利用者も定時トイレへ誘導をし、可能な限りトイレで排泄をする支援をしている。排泄介助の際も、出来る所は極力ご自身でして頂くよう心がけている。実際ホームに入居したことで排泄のADLが上がった利用者もいる。	全員の排泄チェック表を付け、一人ひとりの排泄パターンを把握しています。時間や様子を見ながら声掛け誘導し、可能な限りトイレでの排泄につながるよう支援しています。夜間は無理に起こすことはせず、自然な流れで支援しています。入居後に、排泄のADLの上った利用者もいます。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が身体に及ぼす影響については研修、資料等提示、回覧することで、職員一人一人の理解を促している。また、日頃から飲食物の工夫、腹部マッサージの実施、水分摂取量の把握、運動をする等心掛けている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴表を作成し、原則公平に入浴出来る様にしているが、利用者の体調等の状況に応じた対応をしている。入浴拒否の利用者に対しても、対応する職員が交代する等臨機応変に対応している。また必要に応じ、シャワーキャリーを使用、利用者の状況によりバスリフトも使用可能である。快適に入浴が出来る様、浴槽は高断熱浴槽であり、ヒートショック対策として浴室、脱衣場共にエアコンが設置されている。	入浴は、週2回を基本に入浴できるよう支援しています。必要に応じてシャワーキャリーを使用し、重度の方でも安心して入浴していただけるよう、バスリフトも導入しました。ヒートショック対策として、浴室・脱衣所共にエアコンが設置されています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の過ごし方について、おおまかな流れは決めているが、基本的に、一人一人の気持ちを尊重し、それぞれのペースで過ごして頂けるよう心掛けている。リビングルームのソファは昼食後の転寝に絶好のスペースである。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が服薬の目的、副作用等を理解出来るよう随時確認を行っている。薬変更時の申し送りは、個人記録、業務日誌や職員連絡ノート、口頭伝達と3段構えで行っており、薬変更後の利用者については十分に注意して経過観察を行っている。近隣薬局と連携体制を取っており、週に1度薬剤師がホームに来所し、必要に応じて指示、助言等仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人が、それぞれの残存能力、生活歴等を活かし、ホーム内で役割を持てるような支援を心がけている。また日常を楽しく、快適に過ごせるような環境作りに努めている。趣味、嗜好品がある方については、可能な範囲でホームでも継続して楽しめるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は、健康増進、体力保持の為に、戸外への散歩、敷地周辺での外気浴を行っている。また季節ごとに車を使用して外出をしている。利用者によってはご家族と馴染みの場所等に外出することもある。地域の祭礼、行事等に参加をする場合は、必要に応じ地域の方にも協力して頂いている（コロナ禍では外出は自粛）。	体調や気候の良いときには、近隣への散歩や敷地周辺での外気浴を行っています。屋上でも、運動を兼ねて洗濯物の取り込みや外気浴を行っています。ドライブでのお花見も行っています。来年からは、例年行っていた外出、外食等も再開したいと考えています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身がお金を保持することについては、本人・家族の希望、意向に沿って支援するよう心がけている。金銭所持については入居時等に説明をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等へ手紙を書く利用者がいた際には必要に応じて支援を行っていた（現在は対象者、希望者不在）。電話に関しては利用者、ご家族より希望があった場合は状況に応じてかけて頂くようにしている。コロナ禍で面会制限中は、電話でご家族と話す時もあった。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月利用者と月々の季節感を出せる様な掲示物（カレンダー）を作成している。幼稚な雰囲気にならぬよう、開所以来ホーム内には過剰な掲示物、飾り等をしないよう努めている。また同時に「施設感」を出さず、あくまでも普通の「家（家庭）」の雰囲気を出すよう心がけている。日常の掃除、換気、温度・湿度調整を徹底することで、感染症予防に努めるのはもちろん、ホーム内を快適な空間にするよう心掛けている。	開設時より、幼稚な雰囲気にならないよう配慮し、リビングや廊下には過剰な展示物や飾り等をしないよう努め、施設感を出さず、普通の一般家庭であるという雰囲気を大切にしています。日中はほとんどの利用者がリビングで過ごされているので、快適な環境作りに努め、利用者の状態を見ながら席替えも行っています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、気が合う利用者同士で過ごせる様な場面作りを心掛けている。利用者がリビングではなく、居室で過ごしたいという希望がある時は、職員都合で集団を強要せず、極力自由に過ごして頂くような声かけを心がけている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自宅にいた時と同じ様な空間、感覚で過ごして頂けるような環境作りの為に、居室には使い慣れた家具、写真など馴染みの物を持参して頂くことを入居時、入居相談時に本人、ご家族に勧めている。お茶碗、箸、湯飲み等食器類に関しても、新品の物を用意するのではなく、使い慣れた馴染みの物を持参してもらっている。	居室には、エアコン・カーテン・ベッド・照明・ハンガーラック等が完備されています。入居時に、出来るだけ自宅にいた時と同じような空間で過ごしていただけるよう、使い慣れた家具や、好みのぬいぐるみなどを持ち込んでいただき、居心地よく過ごしていただけるよう支援しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は完全バリアフリーではない。利用者が安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れるよう、必要な箇所に必要な物（手摺り等）を設置。また、段差等については、段差を意識して歩くことを促すことで、認知症進行の緩和にも繋がると意識して、開所以来支援を行っていた。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ちゃばしら

令和6年12月12日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災、地震その他自然災害について全職員が対応できるようにする。地域との協力体制の構築。	いかなる災害時にも、全職員が落ち着いて対応出来る。各職員の自助努力意識の向上。災害用設備について全職員が使用出来るようになる。ハザードマップ等の理解。BCPの周知徹底と共に、研修、訓練を定期的実施。BCPの定期的な見直し、変更等。災害時等地域との協力体制の構築。	各災害対策マニュアル類、BCPの周知徹底。火災訓練だけでなく、各自然災害を想定した訓練を実施。土砂災害警戒区域に指定されている為、避難訓練等を定期的に実施する。自家発電機、給水システム等災害用設備の使用訓練を定期的実施する。地域の防災訓練等へ参加及び、施設の訓練時に民生委員さんに参加して頂く等し、災害時の協力体制の構築に努める。	現在進行中～令和6年度中
2	49	外出、外食等の機会をコロナ以前の様に戻し、利用者にとっての「楽しみ」を増やす。	健康増進、体力保持のためにも、気候に応じ近隣への散歩にはこれまで同様極力出かけるようにする。地域イベントについても引き続き参加し、外食等の機会については少しずつコロナ以前と同等に戻していく。	気候がいい時は引き続き散歩等へ出かけるようにする。地域イベントへも引き続き参加する。ドライブ等、コロナ以前の様な外出の機会を少しずつ増やす。外食の代わりに季節折々のイベント食の機会を増やす。日常のレクの中に身体を動かすプログラムを増やす。	現在進行中～令和6年度中
3	19	納涼祭やクリスマス会等イベントについて、コロナ以前の様にご家族にも参加して頂く。	コロナ以前は、納涼祭、クリスマス会等イベントについてご家族も招待していた。次年度以降はご家族も招待し、利用者と一緒に楽しい時間を共有して頂きたい。	コロナ禍に於いては、三密回避の為、ご家族の各イベントへの招待は自粛していたが、次年度以降は以前の様にご招待する。	令和7年度中

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。